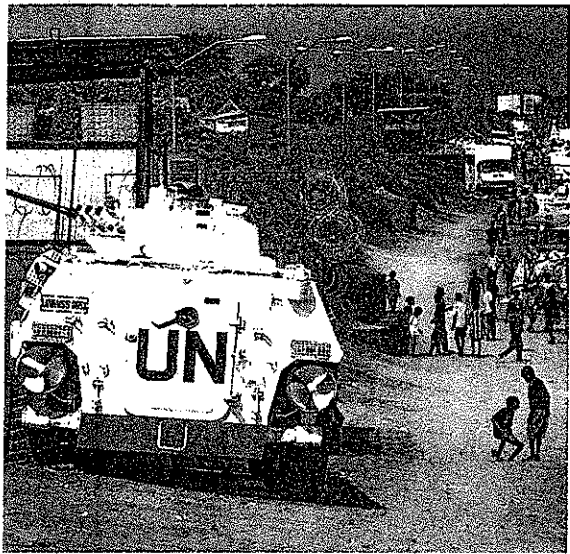


救助要請に出動せず

中国など部隊、危険と判断か

【ヨハネスブルク＝共同】南スーダンの首都ジュバの民間宿泊施設が七月に襲撃された際、出動命令が下されたにもかかわらず、国連平和維持活動(PKO)の南スーダン派遣団(UNMISS)が出動しなかったことが分かった。部隊の一部が危険な現場の状況を懸念したとみられる。国際社会で非難の声が上がり、国連の潘基文事務総長は経



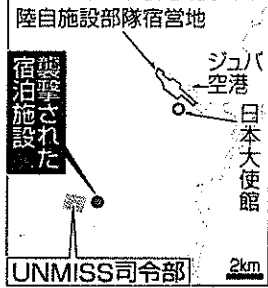
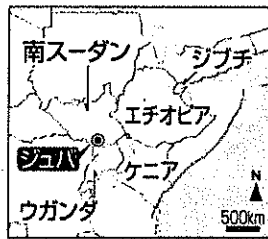
南スーダンの首都ジュバの難民キャンプに止まる国連の装甲車＝7月 (A.P.共同)

緯を調査する考えを表明した。市民保護を最重要任務とするUNMISSには陸上自衛隊も参加しており、新任務一駆け付け警護が付与された場合、対象となり得る案件。新任務に高い危険が伴う可能性を物語るとともに、出動の判断も国際社会の厳しい目にさらされることになりそうだ。

襲撃されたのはUNMISS司令部から約一キロの宿泊施設。国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチによると、国際機関の職員ら約五十人が滞在していた。政府軍兵士らが地元記者を殺害し、外国人の女性らを暴行。数時間にわたり

略奪を続けた。現場から電話で国連に救助要請があったが、UNMISSは部隊を派遣しなかった。

米国の非政府組織(NGO)「紛争市民センター」は報告書で「UNMISS内部で出動命令が下されたが、中国とエチオピアの部隊が出動を拒んだ」と指摘。中国部隊は準備が整っていないことを理由に挙げたが、施設に向かう途中にも戦車や数百人の政府軍兵士がいたため、出動は危険と判断したもようだ。国際人権団体アムネスティ



※防衛省資料やインターネット上の地図を基に作製

イ・インタナショナルは二十五日「市民が殺されるのを傍観した」とUNMISSの失態を非難。米国のパウ・国連大使も「PKO要員は救助要請に応える能力がなかったか、その意志がなかった」と問題視した。南スーダン政府はUNMISSが反政府側を支援しているとの疑念を持っている。このため、UNMISSは政府から活動を妨害されており、これが失態の遠因になったとの見方もある。

10/26
見福